

2020 第 1 回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日 時 2020 年 10 月 29 日（木） 13：30～15：30

場 所 町田市役所 2 階おうえんルーム

【出席者】（敬称略）

■委員

関司 直也（委員長）、柳沢 厚（副委員長）、老沼 敬助、大谷 賢二、狩野 真功、田中 英夫、山崎 凱史、岸 由二、福原 斉、神谷 由紀子、坂本 愛、宮下 徹

■事務局

粕川農業振興課北部・里山担当課長、牛腸担当課長、喜多担当係長、松井担当係長、浅場主事

■傍聴者

0 人

【資料】

次第

町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン検討委員会設置要綱（資料 1）

町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン委員名簿（資料 2）

「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の策定に向けた基本的な考え方について（資料 3）

里山環境の保全・活用に関する意識調査（資料 4）

2019 年度第 1 回検討委員会での主な意見及び対応について（資料 5）

町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗状況確認シート（資料 6）

【議事要旨】

・事務局から検討委員会の開催趣旨、「（仮称）町田市里山環境活用保全計画」の策定に向けた基本的な考え方、里山環境の保全・活用に関する意識調査、2019 年度第 1 回検討委員会での主な意見及び対応、町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗状況確認シート等を説明した。

・質疑応答及び意見交換を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

・経済観光部農業振興課北部・里山担当課長から挨拶

2 事務局及び委員の紹介

・事務局の紹介及び出席委員の自己紹介

3 委員から質疑

1. 委員 多摩都市モノレール延伸についての情報を知りたい。
2. 事務局 市の多摩都市モノレールの担当部署には職員が5名程度おり、モノレール延伸の必要性を東京都にアピールするための材料づくりをしている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、鉄道の利用者が落ち込んでいる。観光や里山を楽しむための需要喚起が必要。そのため、地域の魅力づくりに取り組んでいる。農業振興課と多摩都市モノレール推進室では2週間に1回程度打合せを行い、情報を共有している。
3. 委員 東京都の多摩都市モノレール検討会の内容は知っているのか。また、検討会は開催されているのか。
4. 事務局 確認して、後日、現状の報告を行う。
※確認事項 多摩都市モノレール町田方面延伸ルート検討委員会は、2019年度に3回開催されたが、2020年度は開催されていない。検討委員会の内容は、市の多摩都市モノレール推進室で把握している。また、東京都都市整備局のホームページでも確認できる。

4 「(仮称) 町田市里山環境活用保全計画」の策定に向けた基本的な考え方について

1. 委員 2022年度からの10ヵ年計画は良いこと。新型コロナウイルス感染症に関する分析をしている。日本でのほとんどの計画は、既存計画の延長を前提に考えられている。この先どうなるのかわからない。2022年度までのつなぎの仕事を入れることが必要である。
資料3の6で、「楽しもう」とは何か。北部丘陵の中に入る人としてはこの言葉は疑問である。お金はどうするのか。この景気では、企業は金をくれない。観光客が来て、お金は落ちるのか。里山の保全も、行き詰まっており、担い手の高齢化もしている。どのように稼ぐかが大切である。里山を行政が保全管理し、稼いでよい場所を決める。神奈川県の小網代では、事業として成り立っているため、町田市でも同様に稼がしてほしい。事業ができる法人に1反貸せば稼げる。
2021年度、2022年度はテストをする。新型コロナウイルス感染症が収まっていれば、次の計画に入れればよい。今回のとりまとめにも入れてほしい。
2. 事務局 2点意見を頂いている。1点目は新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で計画の策定は疑問。2点目は、楽しむだけではなく稼ぐことについて

て。

1点目については、2021年の4月から12月頃にかけて策定検討を予定している。そして、その計画は2022年4月スタートで考えている。今後、新型コロナウイルス感染症が状況がどうなるかわからない。収まれば、このスケジュールで考えている。新型コロナウイルス感染症の状況が悪化すれば、検討期間やスタートの時期、中身も考えていかざるを得ないかもしれない。

2点目について、4つの柱があるが、あくまで事務局案であって、計画の柱は委員から意見をもらう。具体的なものは、策定委員会で詰める。里山で稼いで、山を守る。現代版の里山経済の再構築を考えていく。

3. 委員

4つの法人の代表をしている。専門学校でも関わっており、若者は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、仕事がない。若者が里山で仕事をするには、地域、行政、市民団体のサポートが必要。以前の日本の里山は、農業者が住むために、山を管理していた。今は里山に興味がある人が竹を切る程度である。里山業を行う法人が稼げるような事業を行う。土地は行政があっせんする。その結果、周りの里山を保全する。北海道では、できないが都会ならできる。新しい農業が町田であればできる。

4. 委員

主婦の立場であり、新型コロナウイルス感染症拡大の中で一番感じたことは、生協等の野菜の定期購買のありがたさである。小山田・小野路地域は野菜の生産地でもあるため、この制度を活用するとよい。また、野菜に加えマスクやアルコールも購入できるとよい。小さな購買のシステムをつくる。鶴川団地でも小山田・小野路地域の野菜のニーズはある。

5. 委員

人が集まることは良いが、意識が低い人もいる。小野路地域では、小野路宿通り付近はきれいであるが、小野路の北部では不法投棄が多い。取り残された地域が出てくる。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でハイカーが増えた。自宅に自販機を置いているが、売り上げは1.5倍になった。人が増えたが、ゴミも増えた。取り残された地域も検討してほしい。

6. 委員

来館者について、4、5月は休館でもその後は減っていない。今週の土日は200人オーバーであった。密にならないコントロールが大変である。たくさん人がくることは、地域にとって良いが、新型コロナウイルス感染症と共存できるか検討が必要である。新型コロナウイルス感染症が出たら施設は休館となり、生活ができない。まめにアルコール消毒、座席数を半分にしたり、間を広くしている。

地域が声を出すことは大切。その結果、地域も活性化する。新型コロナ

ウイルス感染症については、色んな情報が錯そうしている。今のままではいけないので、コロナ渦でも地域で集まれる参加できる場が必要である。

7. 委員 地元の意見を聞く機会がない。町内会の会合にも市は出席しない。市は地元に来て説明する機会をつくってほしい。小山田には里山はない。昔の里山はどこにもない。抜本的な考え方が必要。

8. 委員 市の街づくりアドバイザーをしている。区画整理事業を提案するのは市に良く思われない。都市住民では、里山は趣味や遊びの場。バブルのころは良かった。

里山は激変している。コナラ、クヌギについて、ナラ枯れが発生しており、小網代でも数百本枯れている。コナラが枯れると、もう1回植えるのが良いのか。元々コナラは炭や薪のために、人為的に植えたもの。別の樹木でもよいのでは。生態学の観点から、植樹を考えてもよい。生産物を高く販売できるように行政が助ける。それが里山保全につながるのではないか。事業をつくれれば、そこで働く人も出てくる。仕掛けを考えることが大切である。

9. 委員 田や畑を持っている。地域では少子高齢化が進んでいる。新しい仕組みを考えることが必要である。

10. 委員 新型コロナウイルス感染症に関しては、楽観的である。日本人は体質上かかりづらく、死亡率も低い。

里山の活用・保全について、やれることからやらないと進まない。前向きな発言が大切。行政主導で里山を活用・保全するシステムをつくるのは反対。自分で企業を呼ぶ。市が呼んでくれないではない。やる気がある人が市に計画書をもっていけばよい。前向きな企業やNPOがいればよい。

小山田では野菜販売を各々が色々な箇所で行っている。そのため、まとめるのが大変。自分が35歳のときに産地化を目指したが、難しかった。じゃがいも等の特産物があれば話は違う。ここでは、どこでも売れるので良くない。小山田三つ葉は、人件費が高いので金にはならない。

11. 委員 今小山田にいるNPOがどうしたらよいのか。代わりの大企業がいればよいのか。里山の産物を売ってもよいと、市が許可してくれればよい。以前、市と販売について協議したが、許可してくれなかった。小山田の竹では売れないので農産物がよい。市が販売について規制解除すればよい。

12. 副委員長 稼げる山の確立は、重要なテーマである。地域の活性化については、以前、計画をつくったときに熱心に議論した。色んな知恵を出したがうまくいかなかった。そのため、アクションプランとして重点化し、ここ数年進めてきた。10年近い計画を忘れて、まっさらにしても、目から鱗となるものは出てこない。今まで試行錯誤してきたことや、成功してきたもの等を振り返り、総括する作業が必要。これは、新しい計画をつくる際に行うことが必要である。

13. 委員 市はURから土地を購入した。当初の計画では牧場をつくったりすることもあった。そのためには、道が必要で、かつ生活を守ることも必要であった。
地権者がたくさんいて、市も面で土地を持っていない。そのため、農業振興地域として網をかけることも議論されたが、未来永劫、農業振興地域となるため、反対があった。住む人はずっと農業に従事することに対して反発があった。そのため、うまくまとまらなかった。農協も関わってきたがまとまっていない。景気も悪くなってきて、予算もない。地権者の了承のもと、大きな面を活用して企業が稼げればよい。

14. 委員 昔からまちづくりの委員をしていたので、経過をよく知っている。市は小山田・小野路地域にモザイク状の土地を持っており、野中谷戸10数ヘクタールの土地もかなりバラバラで困っている。土地の状況も複雑であるが、NPOは現地の状況をよく知っている。
田や畑があれば、年間50万円は稼げる。市が販売について規制をしている。竹の子は販売してはいけないが、竹細工は良いといっている。市は企業と連携すると言っているが、どこがくるのか。今販売させてくれれば稼げる。あと2年の間に販売したい。

5 里山環境の保全・活用に関する意識調査について

1. 委員 パブリックコメント方式で行うのか。

2. 事務局 パブリックコメントは、計画の案に対して行うもの。今回の意識調査は計画案をつくるための参考にするものである。

3. 委員 アンケートで回答したものと、この検討委員会で意見が違っていた場合はどのようにするのか。どういう趣旨で行い、どう扱うのか。方向性を決めたほうがよい。

4. 委員 市は勝手に進めてはいけない。地域の声は大切。
5. 委員 遊びに来る人向けではないのか。小山田から反発を受ける。地域の関係者には確認しているのか。
6. 事務局 確認している。
7. 委員 薬師池公園にも新しい施設ができた。最近は客が減ってきたと聞いている。人が来ているのは、薬師池公園があるから。町田の魅力は都市の中の自然。遊びについては、全否定は良くない。
8. 委員 里山をイメージする人が違う。アンケートでは里山の定義が必要。
9. 事務局 できるだけ里山の定義を統一できるようにする。
10. 委員 来た人から利益を得るように考える。日に1000人きたら、ラーメン屋が成り立つ。市に税金を払うことで潤う。前向きに考えることが大切。
11. 委員長 年配の方が多いため、字が小さいかもしれない。
12. 委員 この文字の大きさでも問題ない。
13. 委員長 文字は12ポイント程度の大きさが良いかもしれない。
14. 委員 これだけ項目が多いとクロス集計できない。これだけ項目が多いと10万人分のデータが必要。意見を聞きましたという結果にはできると思うが、分析はできない。
15. 事務局 アンケートの体裁は整える。
16. 委員長 何かあれば事務局に言うように。
- 6 2019年度第1回検討委員会での主な意見及び対応について
及び町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗状況確認シート
1. 委員 拠点とはどこか。
2. 事務局 1つ目は小野路宿里山交流館。2つ目は小山田地域で考えているが、場

所は決まっていない。

3. 委員 小野路でも、横のつながりが大切であると考えている。小野路でも盛り上げたい人がいる。そういう人が出会える場があればよいと思っている。現状では人づてである。本日は色んな考えを知れてびっくりしている。年に2回の交流ではなく、もっと集まれる会をつくれたらよいと思っている。
4. 事務局 小山田・小野路辺りで、新たにビジネスをしたいという方がいる。人をつなげることは市の仕事であると考えている。今はオンライン等も活用できる。小野路町内会でも若手役員の間で将来についての話もしていると聞いているので、市も参加したい。
5. 委員長 地域を越えた共有は大切。地域を学生でつなぐことをしている。仕組みは相談しながら進めていくとよい。
6. 委員 小野路でもウォーキングやイベントを行っている。立ち入れない範囲もあるので、小野路宿里山交流館を案内している。イベント、収穫体験等発信は協力していきたい。

7 その他

1. 委員長 次の計画をどのようにするのか、活発に検討ができた。目指すところは変わらないことがわかった。お金、経済と暮らしのつなぎ方が大切である。この場が有意義に活かせるように考えていきたい。
2. 副委員長 前の計画について、行政の位置づけも必要である。
3. 事務局 次期計画については、みなさんと相談しながら進めていきたい。新しい計画は、稼ぐことを意識している。そして、稼いだお金で山を守るという方向に持っていきたい。
4. 委員 竹細工は販売してよいといっていたが、畑での産物も売りたい。
5. 事務局 以前にどういう説明をしたかわからないが、里山環境を活用して稼ぐことは構わないと考えている。
何かあれば、電話、メール、FAXでご意見を伺いたい。場合によれば伺う。十分に聞きながら検討していきたい。

最後に、今日の検討委員会については、後日議事録要旨を送付するので、確認していただき、修正があれば伝えていただきたい。

次回の第2回は、来年の3月頃を予定している。近くなったら連絡する。

次回は2020年度の総括とアンケート調査の結果を報告する。

閉会